

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月25日

協議会名:加西市公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
加西親栄自動車(有)	コミュニティバス「はっぴーバス」の運行 5系統 ・万願寺線①② ・若井線 ・芥田線①②	・フリー降車制度の周知活動の実施 ・高齢者、運転免許返納者及び子育て世帯に対する運賃無料化施策の実施 ・総合時刻表の作成・配布	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	(目標) (実績) 8,000人 > 5,607人 サービスを利用していた高齢者が、死去や施設入所などにより、外出を希望する方が減ったものの、サービス水準を維持し続けることで、必要な時に必要な人が利用できるという地域交通としての役割をきちんと果たせた。	地域の運営受託NPO法人が実施する配食サービスに合わせてはっぴーバスのPR活動を実施するとともに、高齢者等への訪問活動やシニアクラブでの広報を引き続き重点的に行う。また、地域内の小学校とSDGsに関する学習を通して交流を図り、利用促進に向けた取組を共に検討していく。
神姫バス(株)	コミュニティバス「ねっぴ〜号」の運行 6系統 ・市街地線①② ・国正線 ・九会線①②③	・高齢者、運転免許返納者及び子育て世帯に対する運賃無料化施策の実施 ・総合時刻表の作成・配布 ・主要バス停、待合所へのデジタルサイネージの設置	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	(目標) (実績) 18,700人 < 21,900人 事業計画に位置づけられた目標を達成した。	令和3年4月からバスロケーションシステムを導入し、主要バス停、待合所にデジタルサイネージを設置した。今後も乗降の多いバス停に整備していくことで、安心して乗車できる情報発信を行う。また、国正線沿線の宇仁地区においては、地域主体型交通「宇仁ふれあいバス」が令和2年10月に、隣接する日吉地区では、「日吉地区乗り合いタクシー」が令和4年3月から運行を開始した。今後は、国正線と地域主体型交通とが連携して、地域の移動困難者の解消に取り組んでいく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月25日

協議会名:	加西市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>加西市の公共交通は、市のほぼ中央に位置する北条町駅を基点に放射状に広がっており、北条鉄道(南～南東方向)、地域間幹線の路線バス(北西、東、南、西方向)、タクシーによる移動と北条町を東西方向に通じている中国自動車道を高速バスが京阪神・津山を結んでいる。これらを補完する形で住民の市内の移動手段として、コミュニティバスを運行しているが、住民の公共交通利用は全体の5%に過ぎず低水準にとどまっている一方、住民の約3割と推計される気軽に自動車を利用できない方(70歳以上の高齢者・運転免許がない・世帯に自動車がない)の日常生活における移動手段の確保を課題と捉えている。</p> <p>令和4年度策定の加西市地域公共交通計画に示す基本理念「皆で協力して創る未来に拓かれた人と人をつなぐ公共交通～一人ひとりが外出を愉しめるまちをめざして～」を掲げ、目指すべき公共交通サービスの実現に向け、計画に示す施策、事業を実施することで、気軽に自動車を利用できない住民の日常生活における移動手段を確保し、地域内の住民の交流を促進することで、住民の生活の質の向上と地域の活性化を図る。</p>